

第 74 回 社団法人日本循環器学会総会 議事録

日 時 2010 年（平成 22 年）3 月 6 日（日） 14 時 10 分～15 時 50 分
場 所 国立京都国際会館（第 1 会場 メインホール）
〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町 422 番地
TEL:075-705-1234（大代表）

代表正会員数 450 名
出席代表正会員数 159 名（委任状出席 220 名）

議 事

I. 総会議事

- 第 1 号議案： 2009 年度事業報告
- 第 2 号議案： 2008 年度決算報告（追認）
- 第 3 号議案： 2009 年度収支予算の修正
- 第 4 号議案： 2010 年度事業計画及び収支予算承認
- 第 5 号議案： 2010 年度就任新役員・新評議員・新正会員代表の選任
- 第 6 号議案： 新名誉会員・新特別会員の報告
- 第 7 号議案： 委員会報告
- 第 8 号議案： 第 75・76 回学術集会会長挨拶・第 77 回学術集会会長の承認
- 第 9 号議案： その他

II. 授賞式

日本心臓財団佐藤賞、Young Investigator's Award、国際留学生 Young Investigator's Award、八木賞、CPIS 賞、高安賞、心臓血管外科賞、小児循環器賞、循環器再生医科学賞、女性研究者奨励賞、コメディカル奨励賞、Circulation Journal Award

I. 総会議事の経過及び結果

定刻になり、定数を満たした旨報告があり、定款第 30 条の定めにより第 74 回北徹会長が議長となり開会。資料の確認後、資料にある 24 名の物故会員に対し黙祷が捧げられた。

続いて議長から議事録署名人に小川聡理事および鄭忠和理事を指名し了承され、議事に入った。

第 1 号議案： 2009 年度事業報告

議長から、2009 年度における事業の概要について、資料のとおり報告され、全会一致で承認された。

第 2 号議案： 2008 年度決算報告（追認）

議長から、議案書 16～23 ページまでの一般会計、専門医特別会計、学術集会特別会計、支部特別会計及び地方会特別会計の 2008 年度会計について、昨年 6 月理事会にて承認され、会告にて会員へ通知

している旨報告があり、全会一致で追認された。

第3号議案：2009年度収支予算の修正

議長から、事業や内容の見直しに伴い行った、議案書24～31ページの収支補正予算について、今年1月理事会及び前日の評議員会で承認された旨説明があり、全会一致で承認された。

第4号議案：2010年度事業計画及び収支予算承認

議長から、議案書32～43ページの2010年度事業計画及び収支予算について、今年1月理事会及び前日の評議員会で承認された旨説明があり、全会一致で承認された。

第5号議案：新役員・新評議員・新正会員代表の選任

議長から、65歳定年制により2009年度で退任する評議員および正会員代表の補充として選出された2010年度就任評議員および正会員代表が資料の通り報告された。

続いて2010年3月5日開催の2009年度評議員会において、地区別定数による連記・無記名投票の結果、2010年度就任の理事及び監事が次の通り選出された。なお任期は2010年3月7日から2011年度総会開催日までである。

<外科系理事> 高本眞一、澤 芳樹

<支部選出理事> 筒井裕之、下川宏明、青沼和隆、和泉 徹、島田和幸、永井良三、水野杏一、伊藤隆之、室原豊明、山岸正和、木村 剛、小室一成、平田健一、松原弘明、松崎益徳、土居義典、小川久雄、鄭 忠和

<監 事> 磯部光章、斎藤能彦

新理事長は、新理事による互選の結果、松崎益徳理事が選ばれた旨報告された。なお定款第26条の定めにより、関東甲信越地区における最下位当選理事である青沼和隆先生は、2010年3月7日から2011年3月19日まで小川聡第75回会長と交代し、小川聡先生が理事となる。

以上について一括して諮られ、全会一致で承認された。

第6号議案：新名誉会員・新特別会員の報告

議長から、友池仁暢先生を2010年度の特別会員として理事会が推薦している旨報告があり、承認された。

第7号議案：委員会報告

1) 学術委員会

堀委員長から以下の通り報告があった。

①日本のガイドラインを海外に発信するため、ガイドラインダイジェスト版の英文化を進めており、海外に発信する意義の高いものを基準に順次作成を進めている。

②日本の循環器系データベースの構築として、今後も循環器疾患診療実態調査を継続していく。

③日本のエビデンス構築のため次の2点を実施している。

1) 大規模臨床試験の後援(循環器領域におけるわが国の臨床研究を推進するため)

2) Translational Research 振興事業(臨床応用・実用化の直前にある最先端の循環器基礎的研究等の

日本の先進医学研究振興に寄与すること目的とするため)
以上について全会一致で承認された。

2) 編集委員会

下川委員長から下記の通り報告があった。

- ①編集委員会では、Circulation Journal (CJ) の学術レベル、Impact Factor (2008年：2.387) の向上、国際化を目標としている。
- ②2009年7月から International Associate Editor (IAE) 11名に就任頂き、国際化と査読の強化を図った。
- ③2009年の投稿論文数は、1,015編であり、質の高い論文が増えている。また採用から発刊までの期間が100日前後まで改善された。約半数が海外からの投稿であり、欧米からの投稿の割合が増加しつつある。
- ④2009年より、以下の新たな取り組みをスタートした。
 - (1) 2009年4月より CJ 本誌を希望者のみに発送し、大幅な費用削減を実現した。
 - (2) Vol.74 No.1 より、全頁カラー化し、論文の視覚的なレベルアップを図った。なお、印刷方法の変更により掲載料のカラー料金は無料化された。
 - (3) 2009年10月より Supplemental file の受付を開始し、動画を含めオンラインのみで公開している。それに伴い、Images in Cardiovascular Medicine を新設した。
 - (4) CJ 目次 Newsletter を、国内及び海外約 5,000 人への配信を開始した。
 - (5) 地方会抄録オンライン化を実施。検索機能のついた利便性の高いものとなった。
 - (6) 日循及び AHA 学術集会期間中に、IAE を含めた国際編集会議を開催することとした。
 - (7) Controversy in Cardiovascular Medicine を新設し、総説として掲載していくこととした。
- ⑤昨年に続き、Best Reviewers of the Year 10 名を選考、副賞と感謝状を贈呈した。
- ⑥例年通り Circulation Journal Awards にて Clinical Investigation 2 名、Experimental Investigation 2 名を選考し、副賞と感謝状を贈呈した。

以上、全会一致で承認された。

3) 心臓移植委員会

島田委員長から以下の通り報告があった。

- ①2009年7月臓器移植法改正案の成立後、心臓移植関連学会協議会にて移植実施施設の拡大と小児移植実施施設の必要性を検討し「心臓移植実施施設の新規認定に関わる審査要領」を作成した。現在、心臓移植実施施設の新規認定申請および既存施設の小児心臓移植実施施設の認定申請を受け付けているところで、申請期間は2月15日から3月31日である。
- ②1997年に臓器移植法が施行されてから、本委員会にて心臓移植適応検討を行っているが、委員会の在り方について検討した結果、個々の審査業務から離れ、移植実施症例および移植実施施設の検証などにあたる方針でまとまった。適応検討業務については、一学会が負担するには業務が増大していること、移植実施施設でも相当数の実績が蓄積されており移植医療の標準化を目指し、各移植実施施設の代表委員で組織する心臓移植実施施設協議体への移行を検討している。ただし、改革にあたっては社会的理解・認知が得られるシステムとなるよう、引き続き心臓移植実施施設協議体と検

討し、厚生労働省とも相談しながら進めていく予定である。
以上について全会一致で承認された。

以上の委員会報告および資料に掲載されている他の委員会報告について、一括して承認された。

第 8 号議案： 第 75・76 回学術集會會長挨拶・第 77 回学術集會會長の承認

1) 第 74 回学術集會會長挨拶

第 74 回学術集會北徹會長から以下のとおり報告があった。

- ①国立京都国際會館及びグランドプリンスホテルで開催する。
- ②基礎の成果を臨床へ、また基礎では臨床結果の仕組みを紐解くといった、双方向の研究が今後非常に重要であるとの考えから、「知の集約による真理の探求—基礎と臨床の融合—」というテーマを掲げた。

2) 第 75 回学術集會會長挨拶

第 75 回学術集會小川聡會長から以下のとおり報告があった。

- ①会期は 2011 年 3 月 18 日（金）～20 日（日）、パシフィコ横浜で開催する。メインテーマは「世界を先導する循環器病学をめざして」とした。
- ②日本循環器学会トランスレーショナル・リサーチに昨年採択された iPS 研究を中心にすえて、その中間報告を含めた會長特別企画を組んでいきたい。
- ③参加事前登録システムを導入する。初日の受付混雑、およびランチョン・ファイアサイドセミナーのチケット購入の混雑緩和を解消することが目的のひとつである。事前登録により、国内・海外の参加者がスムーズに登録できること、また事前登録の利用を促進するため、参加費は事前登録で従来通りの 15,000 円、オンサイト登録は 20,000 円とさせていただく。

3) 第 76 回学術集會會長挨拶

第 76 回学術集會鄭忠和會長から 2011 年度開催の挨拶があった。

4) 第 77 回学術集會會長の承認

議長から、前日開催の評議員会で第 77 回学術集會會長として水野杏一先生（日本医科大学付属病院内科学第一）が承認されたことが報告され、全会一致で承認された。

第 9 号議案： その他

その他、議案の提起はなかった。

II. 授賞式

総會議事に引き続いて、授賞式が行われた。受賞者は下記の通り。

- ・ 第 35 回 日本心臓財団「佐藤賞」
南野 徹(千葉大学循環病態医科学)
- ・ 第 27 回 Young Investigator's Award
最優秀賞：徳留 健(国立循環器病センター研究所高血圧研究室)
優秀賞：武田 憲文(東京大学循環器内科)
優秀賞：上田 和孝(千葉大学循環病態医科学)

- 優秀賞 : 遠藤 仁(慶應義塾大学循環器内科)
- 優秀賞 : 佐藤 公雄(東北大学循環器内科(循環器病態学分野))
- ・第19回 八木賞
西村 智(東京大学循環器内科システム疾患生命科学による先端医療技術開発拠点
科学技術振興機構さきがけ「光の利用と物質材料・生命機能」)
- ・第18回 CPIS 賞
渡部 裕(新潟大学大学院医歯学総合研究科器官制御医学講座循環器学分野)
- ・第10回 高安賞
野崎 俊光(熊本大学大学院医学薬学研究部循環器病態学)
- ・第5回 心臓血管外科賞
齊藤 幸裕(旭川医科大学外科学講座循環・呼吸・腫瘍病態外科学)
- ・第5回 小児循環器賞
赤池 徹(カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部麻酔学科分子医学講座)
- ・第4回 循環器再生医科学賞
基礎研究部門: 川村 晃久(京大大学生命科学系キャリアパス形成ユニット)
臨床研究部門: 該当者なし
- ・第3回 女性研究者奨励賞
横尾 さと(慶應義塾大学再生医学教室)
- ・第8回 国際留学生 YIA
最優秀賞 : 寥 千恵(千葉大学循環病態医科学)
優秀賞 : 焦 其彬(横浜市立大学循環制御医学)
優秀賞: Rajarajan A Thandavarayan(新潟薬科大学薬学部)
優秀賞 : 趙 芫(北海道大学核医学分野)
優秀賞 : 李 萍(名古屋大学循環器内科)
- ・第74回学術集会コメディカル奨励賞
最優秀賞: 林 亜希子(北里大学病院 心臓血管センター)
優秀賞: 前田 明子 (慶應義塾大学病院 循環器内科)
優秀賞: 高野 睦美(国保旭中央病院 循環器内科)
- ・第6回 Circulation Journal Awards
Clinical Investigation
最優秀賞: Zhulanqiqige Do.e (東北大学循環器病態学)
優秀賞 : 福永 崇 (熊本大学医学部附属病院循環器内科)
Experimental Investigation
最優秀賞: 新谷 香 (東京大学法医学教室)
優秀賞 : 川上 哲 (東京都健康長寿医療センター東京都老人総合研究所)

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2010年3月6日

第74回 社団法人日本循環器学会総会

(署名)

(捺印)

議 長 北 徹

議事録署名人 小 川 聡

同 鄭 忠 和

(以下余白)